

デーリー東北
2017年(平成29年)11月14日(火曜日)(2)

藤本建設(青森)が備品寄贈 みち銀私募債活用、八工大に

青森市の藤本建設(長谷川学社長)は、みちのく銀行(高田邦洋頭取)の学校寄付型私募債「みちぎんMiRai-e(みらいへ)」の学校

「みちぎんMiRai-e(みらいへ)」の学校寄付型私募債「みちぎんMiRai-e(みらいへ)」の学校寄付型私募債を發行する際に発生する手数料



長谷川明学長(中央)に目録を手渡した長谷川学社長(左)と佐々木武志支店長

11月13日、八戸市

の0・2%を寄付金として同行が拠出し、企業が指定した地元の小中学校、高校、大学などに必要な備品などを贈る仕組み。5月に開始し、現在5件を受託している。

藤本建設は8月に5千万円の私募債を發行。同大は青森県内唯一の工業大学で、卒業生が同社で従業員として活躍していることから寄付先を選び、手数料の優遇分10万円を備品購入に充てた。

13日は同大で贈呈式が開かれ、長谷川社長と取引先である同行古川支店の佐々木武志支店長が、長谷川明学長に目録を手渡した。

佐々木支店長は「取引先が地域貢献でつながるのは大変喜ばしい」、長谷川

社長は「人手不足が叫ばれている中で、学生にとって地域とは何なのかを考える機会になってくれれば」と強調。長谷川学長は「次世代の人材を育成し、地域で育てるためにも有効活用させていただく」と感謝した。

(玉川那津美)